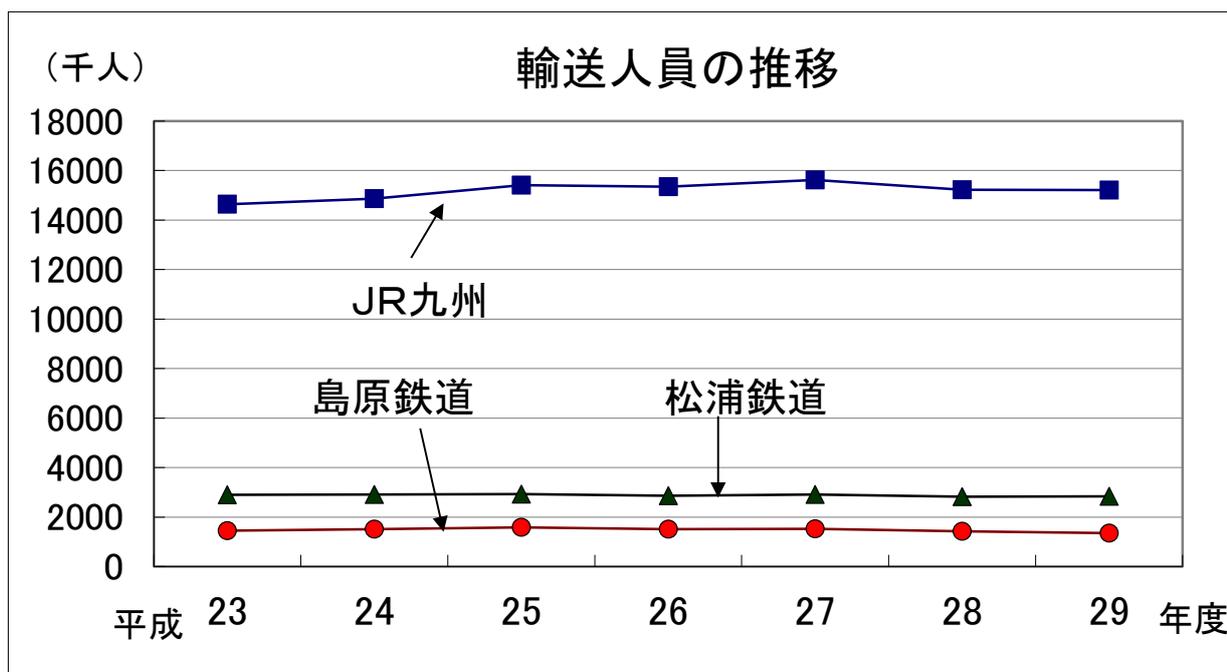


鉄道利用の概況



県内鉄道の緒元

(平成29年4月現在)

鉄道会社	営業キロ (km)	駅数	複線化キロ (km)	複線化率 (%)	電化キロ (km)	電化率 (%)
JR九州	127.2	37	8.1	6.4	60.8	47.8
島原鉄道	43.2	24	-	-	-	-
松浦鉄道	93.8	57	-	-	-	-

※松浦鉄道は、全線(長崎・佐賀両県)に係るもの

利用者数の推移

(単位:千人)

平成(年度)	23	24	25	26	27	28	29
JR九州	14,638	14,859	15,407	15,353	15,621	15,230	15,218
島原鉄道	1,445	1,514	1,583	1,509	1,521	1,425	1,351
松浦鉄道	2,902	2,912	2,928	2,864	2,905	2,822	2,837

※JR九州は、県内各駅の乗車人員の合計

※島原鉄道と松浦鉄道(長崎・佐賀両県)は、全線各駅の輸送人員の合計

本県に路線を有する J R 九州、島原鉄道、松浦鉄道は基幹的な輸送機関として、地域の均衡ある発展と利便性の向上のため、輸送力の増強と輸送サービス改善に努めている。

J R 九州は、安全運行を基本に、より一層のサービス向上に努め、鉄道利用促進に取り組んでいる。特に、D & S 列車「或る列車」の運行や、地域のイベントと連携した J R 九州ウォーキングの実施など、地域に密着した顧客サービスの向上を図っている。

県内 J R 各駅における平成 2 9 年度の総乗車人員は 1 5, 2 1 8 千人で、対前年度比 9 9. 9 % と概ね横ばいで推移している。

島原鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学はもとより、島原半島の観光振興にも重要な役割を果たしている。少子・高齢化などによる沿線人口の減少が進み、輸送人員が伸び悩む中、「島鉄まつり」をはじめとする地域と連携した各種イベントの実施等、鉄道利用促進に努めている。

輸送人員については、島原半島における少子高齢化の影響などを受け、平成 2 9 年度は 1, 3 5 1 千人で対前年度比 9 4. 8 % と前年を下回った。

松浦鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学、買い物等の日常生活に重要な役割を果たしている。

利用促進のための取組としてビール列車等の企画列車の運行にも力をいれているほか、収支改善を図るため、平成 2 8 年 4 月に約 1 0 % の運賃改定を行っている。

輸送人員は、平成 2 2 年度から概ね横ばいで推移しており、平成 2 9 年度は 2, 8 3 7 千人で、対前年度比 1 0 0. 5 % となっている。平成 2 8 年度は熊本地震や台風など自然災害が重なった影響を受けたが、回復傾向にある。

島原鉄道、松浦鉄道ともに沿線人口の減少や少子・高齢化の進行等により厳しい経営環境が続いており、安全運行確保のための施設の適切な維持・管理をあわせて、より一層の利用促進などの取組が必要である。

(県新幹線・総合交通対策課)